

相鉄・東急直通線 新横浜トンネル工事現場付近での 地表面（道路）陥没について（第三報）

—車線規制の解除及びトンネル掘削工事の再開—

平素から相鉄・東急直通線の工事にご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。

相鉄・東急直通線の新横浜トンネル工事現場付近で地表面（道路）陥没が発生し、横浜市道環状2号線の通行止め及び車線規制を行い、長い間ご迷惑をおかけするとともに、ご心配ご不安をおかけしております。

このたび、環状2号線の安全性を確認するための調査および弱い地盤が確認された場所への充填材の注入工事等が完了しました。また、今後の再発防止策等について、道路管理者・交通管理者等関係者の確認が得られ、9月2日より、車線規制の解除及びトンネル掘削工事の再開を予定しておりますので、あらかじめご報告させていただきます。

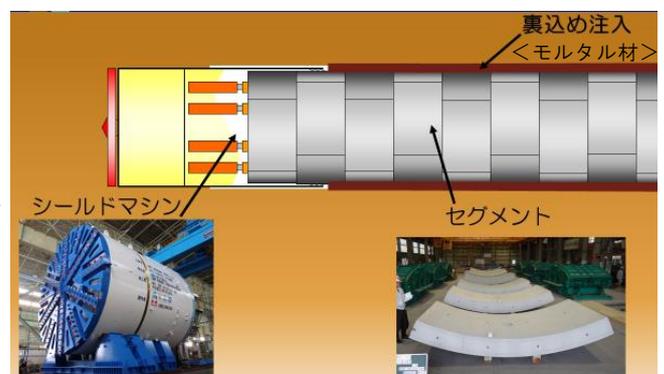
1. トンネル掘削工事の再開及び車線規制の解除について

新横浜トンネル工事のシールドマシンは、新綱島駅（仮称）より掘削を開始し、環状2号線直下の横浜アリーナの手前付近まで掘削を完了していたところですが、6月12日に陥没が発生した以降、トンネル掘削工事を停止しておりました。

陥没の原因究明等を目的として、第三者委員会「神奈川東部方面線 新横浜トンネルに係る地盤変状検討委員会」（委員長：龍岡文夫 東京大学名誉教授）を設置し、陥没の原因及び再発防止策等について検討していただきました。第4回委員会（最終回）8月2日（日）の提言を踏まえ、再発防止に係る計画等を策定し、道路管理者・交通管理者等関係者の確認が得られましたので、令和2年9月2日にトンネル掘削工事を再開する予定です。また、長い間車線規制を行い、ご迷惑をおかけいたしました歩道側1車線についても、9月2日に車線規制を解除する予定です。



【位置図】



【シールドトンネル工法（イメージ）】

2. 再発防止策について

①掘削完了済み区間の対応（新綱島駅（仮称）～横浜アリーナ手前付近）

○環状2号線の直下の区間

- ・安全性を確認するための探り削孔調査を実施し、弱い地盤が確認された場所については、地盤を強化するための充填材の注入を実施しました。

○その他の区間

- ・今回陥没が起きたような地層ではなく、さらにはトンネルが深い位置にあることから、陥没の危険性は無いと考えられますが、万全を期すため掘削が終了したすべての区間において、改めて過去の掘削データを再検証いたしました。その結果、空隙が無いことを確認しました。
- ・なお、工事実施前から地盤変状等の監視を行ってきた地盤変動監視委員会（平成24年12月設立）のより詳細な計測でも地表面と地中の変位は出ておりません。

②今後掘削する区間の対応（横浜アリーナ手前付近～新横浜駅（仮称））

○地盤の空隙を生じさせないための再発防止策を徹底します。

- ・工事再開前のボーリング調査による地質状況の把握（実施済）
- ・シールドマシン掘削面の土圧などの適切な管理
- ・正確な土砂の取り込み量の監視
- ・裏込め注入（モルタル材）の適切な管理

○土砂の取込み過ぎが生じた場合はトンネル内から速やかに充填材の再注入を実施します。

今後のトンネル掘削工事にあたっては、再発防止策を確実に履行し、万全を期して工事を行ってまいります。また、引き続き、掘削完了済み区間も含めて、工事に起因する問題が生じた場合には、鉄道・運輸機構が責任を持って対処いたします。

施工現場では、計測管理等を毎日行い、迅速な対応ができる体制をとっています。